

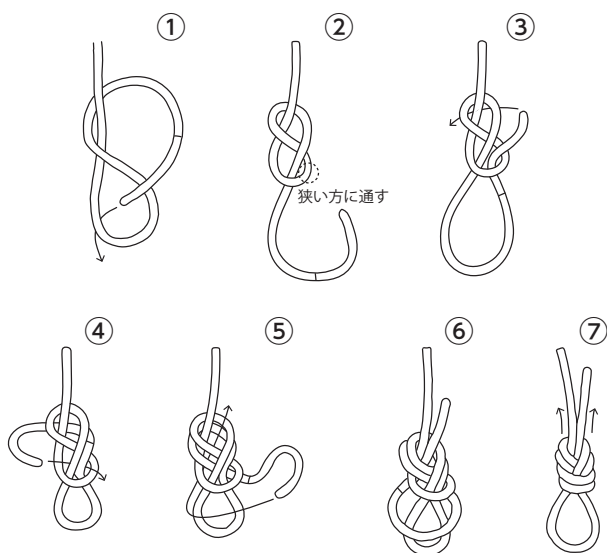
第6章 ロープワーク

岩場を安全に通過したり、沢登りなどに生徒を連れて行く場合に必要最低限のロープの結び方を覚えよう。

1 基本的な結び方

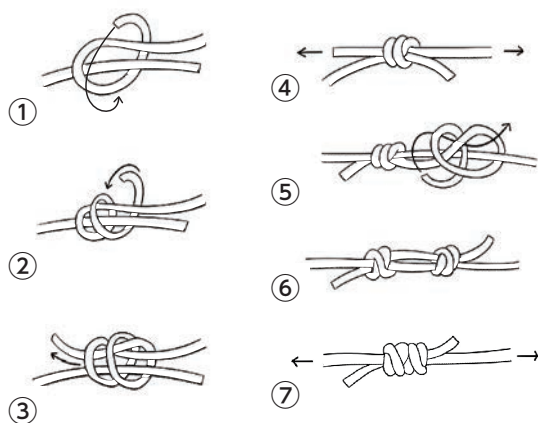
(1) エイトノット (八の字結び)

支点等にロープを直接結びつける結び方。



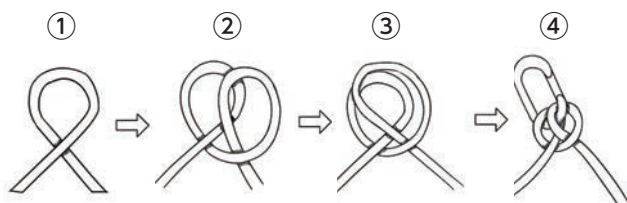
(2) ダブルフィッシャーマンズノット

2本のロープを連結する結び方。



(3) クローブヒッチ

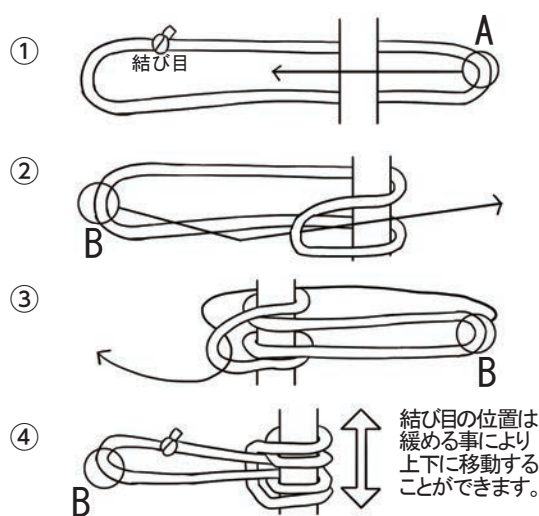
支点等にロープを固定するときに使う結び方。



(4) プルージック結び

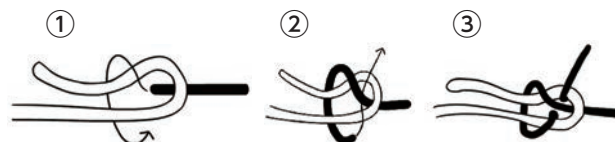
ロープスリングを固定ロープに結び移動するときに使う結び方。余長部分を引くとロープ同士の摩擦により制動がかかる仕組みになっている。結び目を握ることで摩擦が緩和され結び目を動かすことができる。

加重がかかると絞まり過ぎて動かなくなることがある。メインのロープの径との差が大きいほど制動が利く。

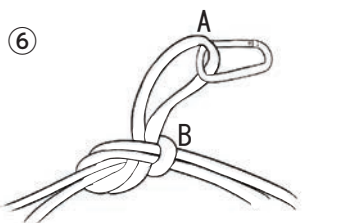
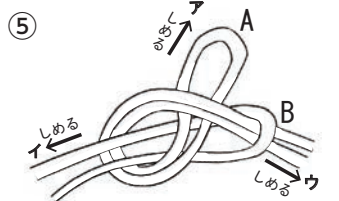
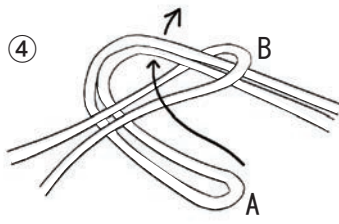
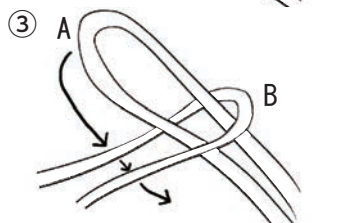
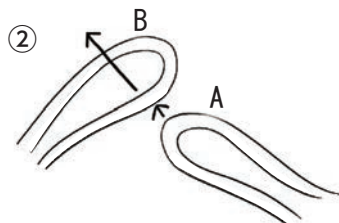
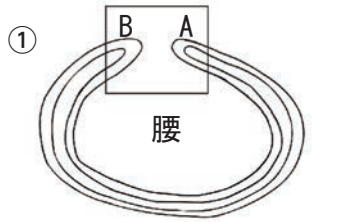


(5) シートベント

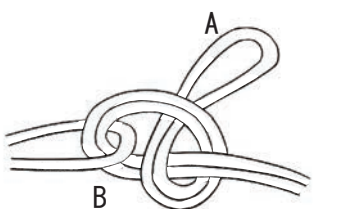
2本のロープ等を連結する結び方。



○スリングを用いて簡易ハーネスを作る方法
 いずれの結び方も繰り返し練習して山で使うように
 する。



誤った結び方



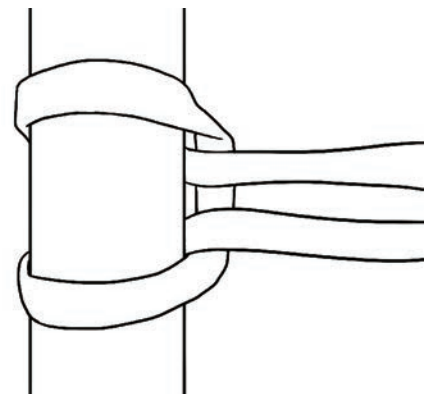
2 固定ロープの仕方

沢登りなどロープを使って滝を登る時にハーネスなどの登攀具が必要である。そうしたところでなくても、北アルプスの穂高岳や槍ヶ岳など急なハシゴやクサリ場があるところでは、ロープで確保することにより生徒が安心して登りや下りに集中することができる。ここでは固定ロープ（フィックスドロープ）のセットについて説明する。

岩場ややせ尾根などのある山では8mm×20mの補助ロープと120cmスリング1本60cmのスリング2本、環付きカラビナ2個程度の装備があると安心である。

フィックスドロープを張るにはまずしっかりした支点（アンカー）をとることが必要である。支点は人工的なもの（ハーケンやリングボルト、登山道にある鉄製のハシゴなど）のほかに自然のもの（立木や岩など）を利用する。

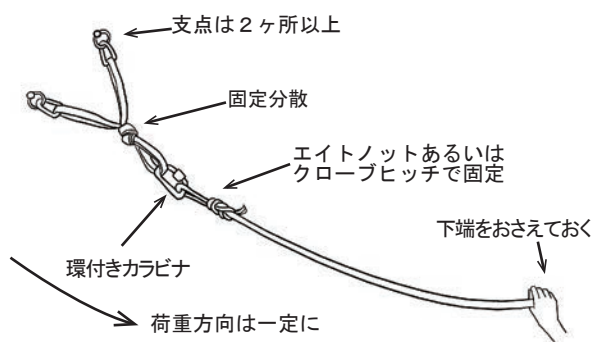
ハーケンなどに環付きカラビナをかける、立木などにはスリングをタイオフしそれに環付きカラビナをかける。支点は最低2カ所以上取る。



タイオフ

支点の環付きカラビナに補助ロープを固定する。結び方はいろいろあるが、スポーツライミングで使うエイトノット（八の字結び）を覚えておくとよい。

セットした補助ロープにプルージック結びなどでスリングをセットし、登る者のハーネスに連結する。最後に登る指導者・経験者がロープ末端をおさえていると安定する。



ハーネスなどが無い場合は、バランスをとるための補助的なものとしてフィックスドロープを使用する。その時は張ったロープの途中何か所かに結び目を作り、それを握りながら登る。

(谷口浩平)